

# いわて鳥獣保護センター通信

第三号

発行日

平成22年3月25日

## ○現在の収容鳥獣と救護状況

現在、当センターで終生飼育されている野生鳥獣の収容状況を右の表に示します。

平成21年度の12月27日～3月22日の間に野外で救護され、センターに搬入された野生鳥獣はオオハクチョウ(18)、ノスリ(3)、フクロウ(3)、オオタカ(2)、ホシハジロ(2)、シメ(2)、カケス、カルガモ、カワラバト、シジュウカラ、ハシブトガラス、アオサギ、コガモ、オナガガモ、コノハズク、ツグミ、ヒドリガモ、アブラコウモリ(7)、タヌキ(2)、キツネ、ヒナコウモリ、テンの22種43個体でした。

43個体の転帰をみると、すでに野生復帰できたのがオオタカやノスリ、カケスなど8個体、現在療養および訓練中のものが14個体でした。

この時期の特徴としては、2月の半ばからオオハクチョウの救護件数が激増していることが挙げられます。救護の理由のほとんどが電線などへの衝突による翼の骨折ですが、中には鉛中毒が示唆されるような個体もあります。オオハクチョウのシーズンはもうしばらく続く見込みです。

また今年度は冬眠中のアブラコウモリの搬入がかなり多くて驚いています。冬眠中の個体が大掃除や修繕中に見つかった搬入されたものがほとんどですが、冬眠中にちょっと散歩に出たくなったのか朝になって軒下などで見つかった例も2例あります。冬眠から覚める時期が近付いているので放獣できる日も近そうです！

獣類	
タヌキ	オス1,
ホンシュウジカ	オス1、メス1
ノウサギ	オス1
猛禽類	
トビ	13
ノスリ	5
フクロウ	2
チョウゲンボウ	2
その他の鳥類	
オオハクチョウ	25
ヒドリガモ	1
コハクチョウ	1
マガン	1
ヒシクイ	2

## 終生飼育動物の紹介③



### タヌキ

(*Nyctereutes procynoides*, Raccoon Dog)

タヌキとアライグマは同じ食肉目に属しますが、アライグマはアライグマ科、タヌキはイヌ科で全く別の種類です。英名のRaccoon Dogとは「アライグマ犬」という意味で、やっぱり良く似ていますよね。

写真では上に乗っているのが女の子、下になっているのが男の子のタヌキです。女の子は今年の1月に交通事故で救護されました。あごの骨折で咬み合わせが悪く、また視力をほとんど失ってしまったために野生で生きていくことはできません。男の子は昨年11月にやはり交通事故で救護され、骨盤骨折のためにゆっくりノタノタとしか歩けません。一緒にすると男の子が目の見えない女の子をいじめてしまうんじゃないかと心配していましたが、試しに同居させてみると…、一時間後にはこのとおりすっかり仲良くなりました。タヌキは家族単位で生活するので1人暮らしはよっぽどさみしかったのかもしれない。こんなことならもっと早く同居させてあげればよかったと思います。なお、男の子は去勢済みなので子供が生まれる心配はありません。

ふかふかの毛皮でとってもかわいく見えますが、ペットと違って人に馴れていないので触れません。でも、気長に馴らせばなれるかな？



ヒドリガモ♀

## 骨格標本を作ってみよう!!



鳥獣保護センターにはたくさんの種類の野生動物が運ばれてきます。ここに来る多くの動物たちは命にかかわるほどのケガを負ったり衰弱したりしていて、助けられずに命を失ってしまう事が多々あります。センターでは職員とボランティアが協力し、そうした助からなかった野生動物たちもできるかぎり標本として残し、資料として役立てようと試行錯誤しています。

標本と一口にいても様々な種類があります。生きたままの姿をできるだけ忠実に再現した剥製標本や骨だけを残した骨格標本、毛皮、凍結したままの凍結標本やホルマリンに漬けたホルマリン標本、調査・研究に使う組織標本など目的によって色々です。今回は現在進行中のキツネの骨格標本の制作過程を紹介しましょう。

### キツネの骨格標本

骨格標本の作製には骨をきれいに取り出すために土の中に埋めて肉を腐らせる方法、カツオブシ虫に肉を食べさせる方法、よく煮込んだ上で酵素処理をして肉を分離するなどの方法がありますが、私達はできるだけ短時間でできて衛生的な「煮込んで酵素処理」を採用しています。



毛皮はなめして保存しました

#### ①解体

骨格標本に使うのはもちろん骨折などの骨の損傷の少ないものを使いますが、単純な骨折程度なら修復可能です。まずは皮をはぎ、骨格をいくつかに分断して骨から肉をできるだけ取り除く解体作業です。

背骨の周り、大腿骨、下腿骨、肩甲骨、上腕骨、前腕骨あたりは筋肉の量が多く、また作業も楽なのでここでできるだけ落としておきましょう。取りにくい部分は煮た後で落とせるので無理する必要はありません。筋肉を落として骨格が明らかになってきたら、次に骨格を頭蓋骨、頸椎、胸椎と肋骨、腰椎と骨盤、四肢、尾椎に分断します。カミソリやメスなどの薄い刃物を使うと骨を痛めることがありません。脊椎の分断は椎間円盤の切断から始めます。力がかかるので手を切らないように注意しましょう。



かまどや七輪はここではまだ現役!!

#### ②煮込み

次は分断した骨を煮込み、肉を軟らかくしてできる限り骨についた肉を取り除く作業です。気温によりますが、数日から数週間解体した骨格を水に漬けておくと煮込む時間が短縮できます。煮込んでいる途中、時々鍋から取り出して肉が簡単に取れるようになったか確認し、程よいところで止めます。この段階では筋肉はほとんど取り除けませんが、靭帯や腱はまだ簡単には取れません。若い個体や老齢の個体は骨がもろい場合が多く、煮過ぎると骨(特に頭蓋骨)がバラバ

ラになるので注意しましょう。鍋の大きさが十分であれば四肢以外の骨を一緒に煮込んでもかまいませんが、四肢は小さな骨が多いので絶対に骨が混ざらないように別々に煮込んだ方が無難です。骨を煮ている最中は意外と豚骨スープのような美味しそうな匂いがします。柔らかくなった筋肉をブラシやピンセットなどを使い、できる限り骨から取り除きます。

### ③酵素処理

煮込んで筋肉を取り除いた段階で多くの骨が綺麗に分離されますが、筋肉が強く付着する部分などには靭帯が残っています。これらの靭帯はタンパク分解酵素の力で柔らかく分解します。私達は最も手に入りやすいタンパク分解酵素のパパインを含んだパイナップルジュースを使用しています。骨を50～60℃のお湯につけ、パイナップルジュースを加え数十分放置します。遠火で温め続けるのがいいですが、骨が傷むので決して煮立たせてはいけません。また、パイナップルジュースは必ず果汁100%のものを選ばなければなりません。この時もとてもおいしそうな香りがします。



漂白中の骨

### ④洗浄・漂白

酵素処理した骨を洗浄し、ピンセットなどを使ってできる限り残った靭帯を取り除きます。酵素処理をしても靭帯は完全には取りきれませんが、この後の処理や乾燥によりほとんど目立たなくなるので適当なところで切り上げます。きれいになった骨を水に漬け、食器や洗濯用の漂白剤を加えて数時間放置します。漂白によって真っ白で匂いの無い清潔感のある骨格標本が得られます。

### ⑤風乾・組立て

漂白した骨を陰干しします。湿っている間は漂白剤や骨の匂いがありますが、乾燥すると白さが際立ち、美しく生まれ変わります。乾燥中に骨をカラスや犬にもっていかれたり、蹴飛ばして骨をなくさないように注意しましょう。ある程度組立てが進んだら、針金などで骨格を支える必要が出てきます。発泡スチロール板はどこでもどの角度でも自由に針金がさせるので便利です。発泡スチロール板にフェルトシートなどを張り付けると高級感のあるおしゃれな感じになるのでお勧めです。



風乾中の骨。乾くと真っ白になります。



現在組み立て中のタヌキの骨格



ヒント: 岩手県に昔から生息する野生の肉食動物3種類の頭の骨です。どれも身近なものばかり!!

岩手県鳥獣保護センターでは飼養動物の一般管理だけでなく、環境整備や標本作製などのボランティア活動も行われています。ご興味のある方はお気軽に岩手県鳥獣保護センターの担当、渡辺祐策までお問い合わせください。

## 岩手県鳥獣保護センター

○所在地 〒020-0173 滝沢村滝沢字砂込390-29

○電話・FAX:019-688-4728

(不在の場合、お名前と連絡先を留守伝言のメッセージに残していただくと折り返し連絡します。)

○開所案内

年末～年始(12月29日～1月3日)を除く年中無休

午前8時30分から午後5時30分 (ただし、臨時に変更になる場合があります。)

○ケガや弱っている鳥獣を見つけたら、まず、ケガや衰弱の具合を見ることが大切です。むやみに手を触れたりせず、元気であればそっとしておいてください。ケガや衰弱のため、動けないようであれば、最寄りの広域振興局、総合支局、地方振興局保健福祉環境部又は保健福祉環境センターにお知らせください。なお、傷病鳥獣の状況により、しばらく様子を見守っている場合もあります。センターのスタッフが直接救護に向かうことは基本的にありません。

○鳥獣保護センターに傷病鳥獣を直接搬入される場合、それぞれの動物やケガ、症状に合わせた受け入れ態勢を整えて待機しますので、できるだけ事前にセンターまで連絡してもらえようお願いします。

○センターの見学や研修、野生鳥獣の貸し出しやボランティア活動などを希望される場合は所定の手続きが必要です。岩手県自然保護課もしくは鳥獣保護センターに連絡し、手続きについてお問い合わせください。

## センターへのアクセス



## クイズの答え：

岩手県に生息する野生の肉食動物というとどんなものが思い浮かぶかな？頭の骨の長さが約15cm、10cm、8cmくらいのものといえば…、答えは大きい順にキツネ、タヌキ、テンです。

これらの野生動物は遠野物語などの昔話でもよく題材に出るように、昔は人を化かしたり不思議な力を持つ「妖獣」として扱われる事もありました。この他にもムジナや今は絶滅したと考えられているカワウソなども昔話で登場しますが、それだけこれらの野生動物が身近なものだったという事です。狐狸のたぐいのご利益で、鳥獣保護センターにも何かいい事起こるかな？!



センターの毛皮標本